

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02169

研究課題名(和文) 親鸞理解の変遷についての総合的研究 江戸時代注釈と聖徳太子信仰の分析を中心として

研究課題名(英文) A comprehensive study on the transition of comprehension of Shinran: focusing on the analysis of annotations in the Edo period and the faith in Prince Shotoku

研究代表者

藤井 淳 (Fujii, Jun)

駒澤大学・仏教学部・准教授

研究者番号：00610726

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では初期浄土真宗と関係が深い聖徳太子像を中心に調査し、あわせて関連する図録・論文などの資料収集することで、親鸞が聖徳太子を信仰した背景について研究を行った。また研究代表者は親鸞書簡の信ぴょう性について再考する必要があることを述べていた。江戸時代において親鸞書簡がどのように受容されていたかを調査することでその仮説を補強することができた。第18回国際真宗学会学術大会において海外の研究者とともにパネル発表を行い、研究成果を発表した。研究分担者は期間中に鎌倉新仏教に関わる研究書を二冊刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の中世において重要な位置をしめる親鸞が聖徳太子を信仰したことの位置づけは今までの研究で十分になされているとはいいがたかった。それを本研究では、近年の研究が浄土真宗内部の資料を中心になされがちであったのに対し、やや古い時代の重要な研究に再着目することで、より広い視野から位置づけることができたと考え

る。また当該分野での最も大きな国際学会で研究代表者の研究発表を行い、研究分担者が親鸞と同じ鎌倉時代より隆盛した叡尊教団について五百頁を超える著書二冊を刊行できたことは大きな成果といえる。

研究成果の概要(英文)：In this research, we researched the background of Shinran's faith in Prince Shotoku by conducting research mainly on the images and statues of Prince Shotoku, which have a close relationship with the early Jodo Shinshu, and by collecting related materials such as pictorial records and papers.

The research director stated that it is necessary to reconsider the credibility of Shinran's letters. I could reinforce my hypothesis by investigating how Shinran's letters were accepted in the Edo period.

At the 18th International Association of Shin Buddhist Studies, I made a panel presentation with an overseas researcher and presented my research result. The collaborated researcher published two books on Kamakura New Buddhism during the period.

研究分野：人文学

キーワード：聖徳太子信仰 親鸞書簡 叡尊教団

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 親鸞の思想を理解する上で基礎となる第一次資料(特に書簡)の真偽に対する理解は、明治以降に浄土真宗の主要な宗派によって行われた聖典の編纂によって大きな影響を受けている。しかしこの編纂における真偽の基準は江戸時代の僧侶によって行われた文献実証的な研究から後退しているとも言え、親鸞の第一次資料の信憑性については現在まで十分に検討されているとはいいがたい。本研究では第一に親鸞の第一次資料(とされてきたもの)が江戸時代にどのように扱われ、受容されていたのかについて調査する。

(2) 親鸞が聖徳太子を信仰したことについては、覚如の『御伝鈔』など古い伝記において記され、晩年に和讃を著したことから重要な役割を果たしていたと考えられるが、その内実や資料に対しては近年疑義が呈されるなど、十分な考察がなされているとはいいがたい。本研究では関連する資料を収集し、また聖徳太子信仰にかかわる造像にも留意することで親鸞の聖徳太子信仰について新たな角度から解明する必要がある。

2. 研究の目的

(1) 親鸞に対する研究はすでに十分になされているようでありながら、第一次資料(特に書簡)の信ぴょう性については十分に行われているとはいいがたかった。本研究ではそれらが江戸時代にどのように受容されていたのかを調査することを目的とした。

(2) 親鸞の聖徳太子信仰を解明する基礎として、聖徳太子像(孝養像、南無太子像)の現地調査を行う。そのことにより、親鸞および初期真宗の聖徳太子信仰の実態を歴史学的にも周囲の事例を含め解明し、その成果をもとに親鸞の思想の分析を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 国立情報学研究所が提供する Cinii (学術情報ナビゲータ)によって、近年、学術論文がキーワードや題名・著者名で容易に検索可能となっており、見過ごされがちな過去の重要な論文を確認するとともに、近年ダウンロード可能となった論文を中心に、最新の研究成果を参照した。

(2) 福井県越前地方および京都市内の浄土真宗の本山を訪れ、聖徳太子像の安置形式を確認した。また鎌倉時代の聖徳太子像を奉安する寺院(福井県、埼玉県、石川県、大阪府、奈良県)を中心に訪れ、その安置様式を確認した。初期真宗と関係の深い愛知県三河地方の寺院の宝物を展観し、関係する論文や図版の解説を読解して聖徳太子信仰の位置づけを確認する。

4. 研究成果

(1) 2017年6月に武蔵野大学で行われた第18回国際真宗学会(International Association of Shin Buddhist Studies, IASBS)学術大会において、海外の研究者および国内の英語ネイティブの研究者とともにパネル発表を行い、研究代表者は親鸞書簡の一部が親鸞の弟子による偽作である可能性があるとする研究成果を英語で発表した。そのことにより国内外の研究者に当該分野における新しい知見を周知することができた。

(2) 研究分担者の松尾剛次は研究期間中に親鸞と同じ鎌倉時代に聖徳太子信仰を鼓吹し、多くの信奉者を集めた叡尊教団の全国的展開に関する500頁を超える著書を2冊刊行した。

(3) 聖徳太子の孝養像・南無太子像などの造像については、従来の研究では像の様式を中心に注目されていたが、本研究では安置・奉安形式にも注目して、聖徳太子像を所蔵する寺院を調査することで、阿弥陀如来に向かって右側(阿弥陀如来からは左側)に、かつ厨子に安置する形式が古い時代において基本と考えられてきたと推定できる。

(4) 鎌倉幕府で政所別当をつとめ、源実朝に十七条憲法について講義した大江広元の子孫(毛利氏、長井氏)が領有するなどした地域(出羽、相模、武蔵、備後)に畿内以外に伝わる鎌倉時代の聖徳太子造像や初期真宗の伝播がともに見られることを確認した。

(5) 研究代表者が親鸞の思想と異質でかつ偽作と考えていた親鸞書簡の一部は、江戸時代においても浄土真宗における「追善回向」と関連して親鸞の思想と異質のものと考えられていたことが確認できた。

(6) 初期真宗における「光明本尊(光明本)」について、展覧会に出展されたものを通じて、インド・中国高僧図および六字名号についての新たな知見を得ることができた。

(7) 仏教において、鎌倉時代の仏教と同様に過去を踏まえつつ新たな展開が見られる事例の基礎的研究として、インド、中国、および近代における事例研究を行い、発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

①藤井 淳、阿含経と般若経の接点―長部『清浄経』の逆説表現に注目して、印度学仏教学研究、Vol.67 No.2、2019、pp.973-979

②松尾 剛次、中世叡尊教団の伯耆・因幡・出雲・石見四国における展開～国分寺等に注目して～、山形大学歴史・地理・人類学論集、Vol.19、2018、pp.61～76、山形大学学術機関レポジトリ

https://yamagata.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4498&item_no=1&page_id=13&block_id=29

Paulus Kaufmann and Jun Fujii、Auslegung der Ausdrücke "Stimme", "Zeichen", und "wirkliche Merkmale", Asiatische Studien - Etudes Asiatiques、Vol.71 No.2、2017、pp.497-526、DOI <https://doi.org/10.1515/asia-2017-0030>

〔学会発表〕(計 6 件)

①藤井 淳、日本語による仏教学への貢献と限界、日本佛教学会、同朋大学、2018(台風接近により中止)

②藤井 淳、『大智度論』における真理表現と Etienne Lamotte の注釈《大智度論》的世界」国際学術研討會、台湾大学、2018

藤井 淳、阿含経と般若経の接点―長部『清浄経』の逆説表現に注目して、日本印度学仏教学会、東洋大学、2018

松尾 剛次、親鸞伝再考 - 玉日姫は実在したのか、第 18 回国際真宗学会学術大会、武蔵野大学、2017

藤井 淳、Regarding the Authenticity of Shinran's Letters That Include the Term "Prayer"、第 18 回国際真宗学会学術大会、武蔵野大学、2017

藤井 淳、近代初期日本および中国における『宗教』という用語の導入について、日仏東洋学会、日仏会館、2017

〔図書〕(計 3 件)

①松尾 剛次、法蔵館、鎌倉新仏教論と叡尊教団、2019、549

②藤井 淳 他、京都大学人文科学研究所、古典解釈の東アジア的展開 - 宗教文献を中心として、2017、422

松尾 剛次、法蔵館、中世叡尊教団の全国的展開、2017、558

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：松尾 剛次

ローマ字氏名：(Matsuo Kenji)

所属研究機関名：山形大学

部局名：人文社会学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 30143077

(2)研究協力者

研究協力者氏名：パウルス・カウフマン

ローマ字氏名：(Paulus Kaufmann)

研究協力者氏名：外村 中

ローマ字氏名：(Sotomura Ataru)

研究協力者氏名：ロバート・ローズ

ローマ字氏名：(Robert Rhodes)

研究協力者氏名：マイケル・コンウェイ

ローマ字氏名：(Michael Conway)

研究協力者氏名：ジェームス・ドビンス

ローマ字氏名：(James Dobbins)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。